

国際開発協力論Ⅱ

元田結花

国際開発協力論Ⅱにおいても、国際開発協力論Ⅰと同様に、オンデマンド形式の授業運営であったことを配慮して、試験ではなく、3つの小レポートの内容を踏まえて成績評価を行った。レポートはいずれも、教員が提示した「問い」について、授業内容を踏まえて、履修者の考えを2,400字程度で論述するものであった。スケジュールとテーマ、点数配分は以下の通りである。

課題 番号	課題 提示日	テーマ	題材 (関連する授業回のレジュメ・配布資料・解説動画に加えて)	締切	点数 配分
1	10/14	外部者が途上国に介入する際に求められる視点について、各自の考えをまとめる	DVD（制作会社が動画をYouTube上に公開） 教員が用意したDVDの内容についての解説動画	11/10	32点
2	11/25	市民社会支援を如何に評価すべきなのかについて、各自の考えをまとめる	DVD（制作会社が動画をYouTube上に公開） 教員が用意したDVDの内容についての解説動画	12/22	32点
3	12/23	全14回分の授業の内容を踏まえ、ガバナンス支援の基礎となっている考え方について、各自の考えをまとめる	学術論文	1/31	36点

各レポートの質問の趣旨や、その質問に答えるために求められる知見については、該当する授業回にてレポート課題を提示した際に、特に視聴するように指定した解説動画において十分に説明してあるので、ここで敢えて説明することはしない。換言すれば、指示に従って、関連する解説動画を視聴していれば、出題の趣旨に即したレポートが執筆できるようになっているので、労をいとわず指定された解説動画を視聴することが求められる。

第1回・第2回課題レポートについては、問いで要求された各点に沿った形で、指定した題材となる動画および該当する授業回の解説動画から入手できる情報を的確に整理できているものが多かった。しかしながら、第3回課題レポートについては、該当する授業回の解説動画から入手できる情報を考慮することなく、指定した学術論文の内容のみに基づいて書かれたものが散見された。解説動画で示された見解が、必ずしも題材として指定した論文と同様の見解に基づいているとは限らないことに注意されたい。

なお、受講者自身の見解については、「依拠すべき立場」があらかじめ決まっているわけではない。根拠を持って提示されているかどうかが重要である。この点についても、大半のレポートは合格点に達していたと言える。